

## 共同生活援助 グループホーム清久

平成 26 年度事業計画に基づき、以下のとおり事業を運営しました。

今年度は賃貸によるグループホームを 2 ホーム（平成 26 年 7 月「おぎそね」定員 7 名、平成 27 年 1 月「こがらい」定員 7 名）を設置し、8 ホーム総定員 40 名で運営しました。また、女性入居者 1 名がグループホームを退所、民間のアパートの生活に移行しました。グループホームを出て地域で単身生活を行なっている人は 4 名(男性 1 名、女性 3 名)となりました。

### < 定員内訳 >

ホーム名	清久	上清久	ハイツ 清久	のぞわら	仁丁町	こがらい	おぎそね	こすもす
定員	7 名	4 名	4 名	3 名	4 名	7 名	7 名	4 名

### < 男女比・年齢構成 >

	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	合計
男性	2	5	7	2	3	4	23
女性	0	0	3	2	5	1	11

### < 平均年齢 >

	平均年齢（男女別）	平均年齢（全体）
男性	50 歳	52.4 歳
女性	56.8 歳	

### < 障害支援区分・総合判定・年金等級 >

	障害程度区分					総合判定				年金等級		
	6	5	4	3	2	Ⓐ	A	B	C	1	2	未
男性	2	7	6	5	2	1	7	12	2	4	17	1
女性	0	4	5	3	0	1	8	2	1	5	6	1
	2	11	11	8	2	2	15	14	3	9	23	2

### < 日中活動場所 >

#### ○就労

会社名	仕事内容	人数
(株)なとり	食品加工・荷物運び	2 人
(株)ウィズウェイトジャパン	リサイクル	2 人
(有)高野産業	配送補助	1 人
松勘工業(株)	武道具生産	1 人

(株)きのえね	清掃	1人
(社福)久喜けいわ	洗濯・清掃	1人
(株)ネアス	クリーニング・掃除	1人

○福祉事業所

事業所名	サービス内容	人数
久喜けいわ	生活介護	4人
久喜けいわ	就労継続B型	13人
久喜けいわ	就労移行	2人
久喜市 あゆみの郷	生活介護	3人
久喜市 あゆみの郷	就労継続B型	1人
宮代町 ひまわりの家	生活訓練	1人
宮代町 ひまわりの家	就労移行	1人

1 支援体制の整備

- ・ホームの拡大に伴い、サービス管理責任者、世話人、生活支援員を増員しました。夜間支援従事者(夜勤専門)には地域住民や家族に協力してもらい支援にあたってもらいました。職員募集は難しく、課題となっています。

職 種	人 数	備 考
管理者	1人	正職員
サービス管理責任者	2人	正職員2名(管理者兼務1名)
生活支援員	14人	正職員3名、契約職員2名、契約短時間9名
世話人	20人	契約職員5名(久喜けいわ兼務1名)、契約短時間職員15名
夜間支援従事者	20人	正職員3名、契約職員3名、契約短時間14名

- ・入居者への日常生活の支援や余暇活動の充実が図れるように、世話人と生活支援員がチームを組んで協力支援を行いました。夜間帯や緊急時などは、久喜けいわに協力してもらいました。

2 地域生活を希望する人への支援

- ・体験利用ができる居室を設置し、体験的にグループホームを利用してもらいました。体験した人からは、「親とけんかしないがいい」、「ご飯がおいしい」、「自分のことを色々やらないとならなくて少し大変だった」、「家で体験できないことが出来て自信がついた」などの声がありました。体験利用を通し新たに9名が入居しました。

3 地域生活者としての自立支援

- ・金銭管理については、自らが計画的にお金を使えるよう出納帳を活用し、日々の買い物等の実践を繰り返し体験することで、収支の流れを理解できるように努めました。予定外のものを購入し、使いすぎてしまうこともあります。失敗することで学ぶことも多く、少

しずつ計画通りお金が使えるようになってきています。

- ・「あじさいの会」を定期的を開催しました。入居者ひとりひとりの声を大切に職員は側面的に支援しました。
- ・単身生活を望む入居者の為に、サテライト型住居を設置する予定でしたが、近隣に賃貸のアパートが見つからず実現しませんでした。日々の生活の中で一人暮らしを想定した支援を行なうようにしました。

#### 4 地域社会活動への積極的な参加

- ・地域住民の一員としての役割として、地区の清掃や草むしり、ゴミ当番、きよく大運動会のテント設営、地域行事準備等を手伝いました。
- ・「清久婦人会」に4名の入居者が会員とし、地域活動や交流会、地域行事の手伝い等に参加しました。

#### 5 医師、看護師、栄養士と連携した健康管理の充実

- ・年に1回、就労先や啓和会が行う健康診断を受けました。有所見者に対しては、嘱託医に相談し必要に応じて病院に受診しました。日常生活での疾病や怪我について、看護師の指導のもと病院に受診しました。高齢化に伴い、眼科、泌尿器科、整形外科の受診が増えてきています。
- ・健康状況の把握は毎日各ホームにて行いました。日頃より、手洗い・うがいを実施し感染予防に努めました。インフルエンザの流行時期にも予防には努めましたが、入居者2名がインフルエンザに感染しました。
- ・生活習慣病の予防として、必要に応じて管理栄養士に参加の作成した献立表にて食事の提供を行ないました。

#### 6 余暇の充実

- ・地域行事には積極的に参加し、地域の人と交流しながら楽しむことができました。
- ・入居者の要望を聞き、「ふれあいの家 しらはた」を活用し、地域のボランティアにきてもらい「ものづくり教室」を開催し、けいわの利用者数名と手芸などを教えてもらいました。自分たちで作った作品は部屋に飾ったり、家族や友人へプレゼントしました。
- ・久喜市フレンドシップ学級やみんなの会に参加し、啓和会以外の人との交流ができました。また、マラソンクラブ、音楽クラブに参加し、日頃の練習や大会、発表会を通じ本人の自信やる気につながりました。

#### 7 関係機関との連携

- ・触法障害者、男性利用者1名の受け入れをしました。ホーム体験利用を行ない、8月に正式入居しました。関係機関、支援センターと連携し協働での支援を行いました。出来ないことや分からないことは、支援者が少し手をかし、見守るなかで、安定した生活が送れています。就労実習を重ね、6月には正式に就労する予定になっています。
- ・ホームから単身生活した人へ、相談や訪問など支援センターと協同でサポートしました。ホームは実家のように行き来できる環境になっています。

## 8 家族との関係

- ・サービス内容の説明や手続き等について、職員が家族と連絡をとりあいました。本人からは、手紙や電話などで近況について家族に連絡がとれるように支援しました。
- ・成年後見制度に関しては34名中6名が利用しています。現在、1名が申請中です。

## 9 危機管理の徹底

- ・日常的に、入居者には火災の恐ろしさを伝え、火災予防に努めました。
- ・各ホームで危険箇所の点検と老朽箇所のメンテナンスを行い、必要箇所には早急に修繕をしました。エアコンや洗濯機などの電化製品の寿命により使用不可能となることが多くあり、購入しました。
- ・久喜消防署立会いの下、消火訓練、通報訓練、避難訓練を行いました。また、久喜市総合防災訓練に参加し消火訓練を行いました。実践を通し入居者と職員の防災に対する意識を高められるように努力しました。
- ・交通安全について、自転車事故が1件発生しました。就労先より自転車でホームへ帰る途中に、左右確認をせず直進し、自動車との接触で足を骨折する事故となりました。事故後の通勤方法について、本人、会社、支援センターと話し合いを行ないました。自転車通勤を自粛し電車通勤をすることになりましたが、休日に自転車で外出することもあるので、交通ルールを守り、事故を繰り返さないように、日頃より話をしています。
- ・本人が物品の購入や宗教勧誘などで不利益をこうむらないように、日頃から助言を行い、何かあれば相談しやすい環境を整えています。

## 10 人材育成

- ・世話人、生活支援員は研修に積極的に参加し、日々の支援の見直しやサービスの質の向上に努めました。

### ○研修実績

#### (外部研修)

研修名	主催	日時	場所	参加者
全国グループホーム等研修会 近畿地区大会	日本知的障害者福祉協会	7/24～7/25	神戸ポートピアホテル	金子
発達障害と併存障害・周辺症状への理解	埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」	9/10	志木市民会館パルシティ	金子
地域生活支援部会主催 ホーム職員研修	埼玉県発達障害福祉協会	11/6	すこやかプラザ	矢治、齋藤(暁) 小池、高橋(朋)
虐待防止研修会	関東地区知的障害者福祉協会	12/18	株式会社発明会館	高橋(智)
埼玉県地域定着支援センター研修会	埼玉県地域生活支援センター	12/19	大宮ソニックシティ	矢治
地域生活支援部会	埼玉県発達障害福祉協会	3/4	すこやかプラザ	相馬

- ・サービス管理責任者(地域生活)の資格を1名(相馬)取得しました。

(内部研修)

研修名	内容	日時	場所	参加者
新任職員研修	池並常務理事 講話	8/28	久喜けいわ喫茶 談話室	齋藤(直)
定着支援センター事業関連研修	埼玉県地域定着支援センター センター長 木内英雄氏 講話	10/7	ふれあいセンタ ー久喜	金子
中堅職員研修	事業所事例報告会	12/12	久喜けいわ喫茶 談話室	矢治
普通救命講習	AED 講習	1/16	久喜消防署	小池、太田
中堅職員研修	事業所事例報告会	2/13	久喜けいわ喫茶 談話室	金子、高瀬 相馬
歯科保健事業 嚙下と歯周病予防	依田歯科医院 依田顕先生 講義	3/5	ふれあいセンタ ー久喜	高瀬、高橋(智) 太田

1 1 PCソフト導入によるサービス提供の向上

- ・今年度はPCソフト「福祉見聞録」の導入には至りませんでした。業務日誌をPC入力化し、記録の充実を図り、入居者のサービス向上に努めました。

重点項目の達成状況

1 新たなホームの開設と新入居者の受け入れ準備

- ・将来ホームでの生活を希望する在宅や施設の利用者へ、ホームの説明や見学を積極的に行ない、体験利用を実施しました。今年度は9名の新入居者を受け入れました。

2 防災体制の強化

- ・ホームで消火訓練、通報訓練、避難訓練を行い、地域での行事、地区の防災訓練等に積極的に参加しました。各ホームで顔を覚えてもらえるように、日頃から近所付き合いを大切にしました。

3 高齢者及び医療的ケアが必要とされる入居者に対し、健康管理及び生活の質に重点を置いた支援

- ・入居者の健康を知るために、日々のバイタルチェックを継続しました。病気などの早期発見ができ、すぐに対応することができました。
- ・健康管理について、生活習慣病に課題のある入居者に対し、運動や食事について本人と話し合いました。運動については、通勤や近隣の外出は徒歩を心掛け、室内で出来る運動を継続し行いました。食事については管理栄養士のアドバイスしてもらい、野菜を多く摂ったり、間食の量を控えたりしました。また、小遣いの使い道が飲食費ばかりになっていないかをレシートを一緒に確認しています。

#### 4 個別支援計画の作成に係る、一連の業務の再確認

- ・PDCA サイクルに基づき、アセスメント、個別支援計画作成会議、プラン作成、プラン実施、モニタリングを実施しました。特に、個別支援計画作成会議を実施し、利用者の要望、ニーズ、目標、支援内容等を職員全体で共有できたことは効果的でした。

#### 5 サービス等利用計画の作成の協力

- ・障害者生活支援センター「きよく」の相談支援専門員がグループホーム入居者全員分のサービス等利用計画を作成しました。グループホームでは、アセスメント、モニタリング時に情報提供を行い、計画作成に協力しました。
- ・サービス等利用計画を通じ、新たにグループホームの支給決定を受けた人が増え、14名がグループホームの体験利用を行なうことができました。

#### 今後の課題について

- ・今後も増えつつある圏域内の在宅障害者や単身生活者の支援について、関係機関、支援センターと連携し関わっていきます。
- ・入居者の高齢化に対して(70歳以上：34名中5名)の必要に応じて、本人に合った福祉サービスが利用できるように側面的に支援していきます。
- ・近年、小規模施設の火災が発生しており、地域で暮らすために防災対策を強化が大切になっています。火災予防の徹底に努めていきます。
- ・老朽化している賃貸建物の将来については法人本部と協議し決定していきます。
- ・新たに予定している発達障害者のためのグループホームの運営は支援センターと協議していきます。
- ・機能訓練棟の利用に関しては、入居者の体力維持と機能向上の為に利用を促進していきます。